

「常呂川下流地区水害タイムライン検討会」(第6回)

令和2年7月31日に常呂町多目的研修センターにおいて、「常呂川下流地区水害タイムライン検討会(第6回)」を開催しました。タイムラインは、地域住民の円滑な避難を図るために必要な行動項目やタイミングを関係機関と連携して検討し、災害が発生する前までに安全な避難を行うための事前防災行動計画を策定するものです。今回の検討会のワークショップでは、これからの出水期に備えてこれまでの検討会の結果を踏まえて作成した「常呂川下流地区(常呂自治区)水害タイムライン試行版」詳細表に基づいた行動項目の確認を行いました。

開催日時 令和2年7月31日(金) 9:00 ~ 12:00

実施場所 北見市常呂町多目的研修センター 1階大ホール(北見市常呂町土佐2番地1)

参加機関 北見市、網走開発建設部、網走地方气象台、陸上自衛隊、北海道オホーツク総合振興局、北海道警察、北見地区消防組合、北見市社会福祉協議会、北見市民生委員児童委員協議会、北見市教育委員会、北海道電力株式会社、東日本電信電話株式会社、常呂町農業協同組合、常呂漁業協同組合、きたみ市商工会、JA北海道厚生連常呂厚生病院、常呂町建設業協会、常呂自治区内町内会 計 18機関 63名

1. 座長挨拶

開会にあたり、座長である東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 松尾一郎客員教授よりWeb会議を通じて「防災対応では初動対応が非常に重要である。タイムラインにも初動対応の行動内容が記載されており、これらを円滑かつ効果的に実施することが求められる。このため、今回の検討会で行動内容を再度確認し、これからの出水期に備えていただきたい。」と開会挨拶を頂きました。



松尾一郎 座長の挨拶

2. ワークショップ

はじめに事務局よりこれまでの取組経緯、ワークショップの進め方の説明の後、常呂川下流地区水害タイムライン行動項目の確認を行いました。



< 行動項目の確認の具体内容 >

行動項目の確認では、ファシリテーターがタイムラインステージ1から3までの行動項目を読み上げ、行動内容の詳細や役割分担について意見交換を行いました。このワークショップを通じて、関係機関から様々な意見が出され、各機関の組織改編や各機関での再検討結果を踏まえた役割分担の見直し等の合意がなされました。

3. 全体講評・話題提供

ワークショップ終了後、事務局より避難場所等における新型コロナウイルス対応に関する話題提供を行いました。その後、アドバイザーである日本赤十字北海道看護大学 災害対策教育センター根本昌宏センター長より「想定外の災害に打ち勝つためには、地域で活動する人々の力が不可欠である。支援者・避難者ともに新型コロナウイルスの蔓延によりとるべき行動が増えており、何が必要かを認識することが大切である。また、水害から命を守ることを優先し、避難場所が密であったとしてもまずは受け入れるという体制も必要な場面もあり得るということ踏まえた検討を進めて欲しい。関係者・周囲への知見・情報の伝達をしていただき、自己完結型でもよいので、できる範囲で訓練を実践していただきたい。」との講評を頂きました。

最後に、松尾一郎座長から「常呂川では近年の出水を踏まえ、昨年からは、開発建設部、建設管理部、北見市等が連携し、タイムライン検討会を実施しているが、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所開設・運営に関連する項目をタイムラインに組み込むことが必要である。段ボールベッドの備蓄等、緊急時に即座に対応することが困難であり、事前準備が必要とされる項目を盛り込み、タイムラインを進化させていくことが重要である。また、要配慮者施設に関する検討も進め、タイムラインに盛り込んで欲しい」との全体講評を頂きました。



根本昌宏アドバイザー

4. 閉会

事務局から本格的な台風シーズンを迎えることから、タイムライン防災の適切な運用への理解と協力を関係機関へ依頼するとともに、次回は出水期後の振り返りを予定していることを連絡し、第6回検討会は閉会となりました。